

2018 年度
事業計画書

2018 年 4 月 1 日から
2019 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

総合活動

I. 役員会等	1
---------	---

事業活動

I. 科学技術館の運営事業	3
II. 他館の運営管理事業	7
III. 他館に対する活動支援事業	11
IV. 科学技術系人材の育成事業	12
V. 科学技術の普及啓発事業	13
VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業	14
VII. 科学技術の研究開発とその促進事業	14
VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	14
IX. 科学技術館施設の利用促進事業	15
X. 補助を得て実施する事業	16
XI. 助成を得て実施する事業	16

I. 役員会等

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 常勤理事会の開催

2. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

公益財団法人日本科学技術振興財団への移行にあわせ、賛助員制度を発展的に解消し「北の丸科学技術振興会」を立ち上げています。「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との連携を強化し、わが国の科学技術の振興に貢献することを目指します。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

企業・団体との各種連携活動を強化します。

3. 組織

財団の諸事業と組織が効率的に事業を推進させるため、柔軟に組織の変更ができるよう体制を整えます。

(1) 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修、科学技術館業務報告会等、財団職員の育成強化を図ります。

4. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動を推進します。

(1) 財団広報活動

これまでの広報活動を見直し、効率的かつ効果的な手法を計画して確立し、さらなる充実に努めます。

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を年4回発行します。

(3) 「科学技術館メールマガジン」等のネットによる情報発信の充実

科学技術館で行うイベント・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の最新情報を、毎週水曜日にメールマガジンの形式で配信します。また、イベント開催等のリアルタイムの情報を Twitter により一般の方々に発信します。その他、ホーム

ページ等必要に応じて適切な手法で情報発信を充実させます。

(4) 国際化対応やIT活用の拡充に基づく広報活動の展開

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度も鑑みて財団全体で国際化対応やIT活用の拡充を考慮し、それに基づく広報活動の展開を目指します。

[事業活動]

I. 科学技術館の運営事業 (479百万円)

主として次代を担う青少年、そして親子連れ、家族連れを対象に、実際に見て触れて試すことで楽しみながら理解に近づく体験型の展示手法を用い、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開します。また、目標を持った継続・反復となる活動を展開する「サイエンス友の会」の活動充実を図るとともに、効果的な期間に特別展を開催するなど機会をとらえた事業活動を行います。

1. 科学技術館の常設展示の運営

(1) 展示室の運営

①展示室および展示の保守・管理

来館者が安全・快適に見学でき、当館見学の目的をより良く達成することができるよう、常に展示および設備の保守・点検・修理・改善等の整備を実施し、展示空間の環境向上に努めます。

②展示の解説および実演

約20の常設展示室およびコーナーにおいて、スタッフによる展示解説を行うとともに、毎日40回以上の実験演示プログラムを実施します。

③入館者の安全管理

館内での事故・怪我・病人の発生、また災害時や緊急時には、来館者の応急処置・救急車の要請等の必要な対応を適切に行います。

(2) 広報活動

①ウェブページ等による広報活動

常設展示・特別展・館内で開催する各種イベント等について、ウェブページやメールマガジンにより常に最新の情報を発信します。

②ステークホルダーと連携した広報活動の展開

科学技術館の展示や各種イベントを、多くのステークホルダーとの連携により計画実行していくにあたり、ステークホルダーが有する広報チャンネルにも展開させていただくことで、当財団・科学技術館単独で行う以上の範囲と対象者への広報活動を行います。

③入館者誘致活動

- 1) 団体来館者のデータから履歴や利用状況を分析し、継続的な利用や新たな来館への誘致に繋がる営業活動を計画検討します。
- 2) 学校団体の利用クオリティの向上に繋がる展示に関する情報の提供を図ります。
- 3) 2020年に向けてさらに増加が予測される外国からの来館者に向けた情報提供とサービス向上のための方策について計画検討します。

(3) 学芸活動

①体験学習・職場訪問の受入

中学校等からの協力要請に応じ、館内実務作業の体験学習および職場訪問の受入を計画します。

②インターシップの受入

海外からのインターンシップ生受入を計画します。

(4) 館内施設の活用

実験工房・実験スタジアム L・イベントホールをはじめ、回廊部壁面を利用したギャラリー展示など館内施設を有効に活用して、ステークホルダーと連携したイベント等の展開を図ります。

(5) 連携・交流事業

①博物館連携活動

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、東京都博物館協議会などの組織を通じて、全国の博物館をはじめ、特に理工系博物館との連携を深めるとともに、各種会議、研修会等に参加出席し、情報交換と職員の資質向上を図ります。また、機会を利用して海外の博物館との積極的な交流を図ります。

②地域との連携事業

千代田区や千代田区ミュージアム連絡会加盟の社会教育施設・団体と連携し、地域活動に貢献します。

③企業との連携事業

1) イベントの開催

社会貢献事業を積極的に展開する企業に働きかけ、各社事業の特徴に相応した CSR プログラムの新規共同開発や、話題性・新規性のある教室やイベント等を企画開催します。具体的には、味の素株式会社「味覚教室」、東レ株式会社「ろ過で地球の水について考えよう」・「せんいの不思議」、キヤノン株式会社「光のじっけん室」、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社「レモンのチカラ」、中外製薬株式会社「細胞の観察と DNA の抽出実験」、日本アイ・ビー・エム株式会社「TryScience 実験教室」等を実施するほか、新規連携先の開拓を図ります。

2) ボランティア活動の受入れ

科学技術理解増進分野における社会貢献活動を展開している企業等と連携し、ボランティア等を受け入れ、事業の拡充を図ります。

2. サイエンス友の会の活動

小学校3年生から高校生までを対象とした1年間の会員制による科学・技術教室を実施します。活動は、おもに「実験教室」「工作教室」「自然体験教室」「施設見学会」等で、単に科学や技術の知識を身につけるだけでなく、多くの体験を基に自ら探究し挑戦する意志や意欲を高めることを大切な目標とするとともに、行事を通じた家族間のコミュニケーションも図ります。年間 300 以上の教室、延べ 6000

名ほどの参加を計画します。

3. 特別展・イベント等の開催

春休みや夏休みなど学校休暇期間に開催する特別展を中心に、科学や技術を通じたものの見方の醸成やものづくり体験を企画実施し、多くの方が科学・技術について考え・親しむことのできる機会の創出を図ります。

(1) 特別展

①2018年春休みイベント「サイエンス か〜みバル！」

「紙」をテーマとした屋台形式の工作・実験をする広場をイメージした会場で、楽しむことを主眼におき、さまざまな年齢層に対応したプログラムを実施します。道具を使い、手を動かし、完成に向けて工夫することで、紙の性質・用途・科学的な視点などに気付き養う機会を提供します。

会期：2018年3月20日～4月4日（予定）

②2018年夏休みイベント「サマー・サイエンス・カーニバル」

小中学校の夏休み期間中に、館内で開催されるさまざまなイベントを束ね、実験や工作を楽しめる教室等を多彩に開催し、夏休みの自由研究にも役立つ内容のプログラムを実施します。

会期：2018年夏休み期間（予定）

③2019年度春休み特別展「光のふしぎ展（仮称）」（公益財団法人 日本財団助成事業）

「光」を総合的に学習する巡回型展示物を制作し、春休みにミニ特別展を開催します。本事業は来年度と合せ2か年計画の予定です。

会期：2019年春休み（1週間程度、予定）

④2019年春休み特別展「知れば知るほど深くなる！？ もっと知りたい！うみのこと（仮）」

（公益財団法人 日本海事科学振興財団助成事業）

2017年に開催した特別展「たからのうみ と うみのたから」への来場者が書いた「もっと知りたい！うみのこと（何を知りたいか）」で回答の多かった「海」に対する素朴な疑問に呼応して、科学技術館のもつ「見て・触って・からだ全体を使って体感し、自分の知識や興味に応じて楽しみながら科学と技術に興味・関心を深める」という特徴を生かし、「海」の科学的側面、「海」を知るための技術、「海」を利用する叡智等、多方面から人と海の間わりについて、学び、考える場を提供します。

会期：2019年春休み（予定）

(2) イベント

①「ものづくり体験 たたら製鉄」

ものづくり体験関連イベントとして開催します。

会期：2018年11月（予定）

共催：一般社団法人 日本鉄鋼連盟

②「ワクエコ・カーモデラー教室」

自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」において、プロのカーモデラーの指導により工業用クレイを使ったカーモデル造作教室を行います。

会期：2019年3月（予定）

主催：日本カーモデラー協会、一般社団法人 日本自動車工業会

③FORESTイベント

当館5階FORESTの来場者を対象に、身近なものを使った簡単な工作や、気軽に楽しめる参加型イベントなど、年間を通じて複数回実施します。

④理研DAY

国立研究開発法人理化学研究所（理研）の現役研究者に登壇いただき、研究の話はもとより趣味や好きな本・映画などの話題を通じて科学者・研究者と来館者が直接対話することのできるコミュニケーションイベントを理研との連携により毎月1回開催します。

⑤「夢・化学ー21」わくわく理科実験教室

主に小学生を対象とする実験や工作・観察を通じて、化学の面白さや不思議さを体験してもらう教室を主催者と連携して年間を通じて6回程度開催します。

主催：「夢・化学ー21」委員会

4. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積された教育プログラムや実験演示の企画開発力や実施のためのノウハウを、全国の科学館・各種イベント等において展開実施します。

(1) 出張実験実演・実演支援

ステークホルダーが関係しているイベント等に向けて、教育プログラムや実験演示、工作教室等を開発したり、当館スタッフを派遣しての教育指導や実施運営等を要望に応じて行います。

(2) 巡回展示物の貸出し

①人財育成部と協力し、本年度は「ラ・ビレット展」、「地球環境展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「はかるのヒミツ展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「科学戦隊実験ジャー」の11アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、科学館、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等でも利用できるように運用計画を作成しています。

②付加価値を高めるために科学実験ショーや、ワークショップ、工作などのソフト面での提供も含めて巡回事業を実施します。

5. 展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

科学技術の進歩や産業構造の変遷等を捉え、時代の変化と求めに呼応した情報提供や新しい技術を活用した展示を世に送り出すため、展示・展示室の新設・更新を行います。また、同様の目的をもって実験体験プログラム等の企画・開発を行い、常設展示内の実験演示や特別展やイベントで活用します。

(1) 展示新設

①館内マルチインフォメーション整備事業（一般財団法人 日本宝くじ協会助成事業）

科学技術館を利用する海外からのお客様を含む老若男女さまざまな入館者に対して、館内の多彩な展示、実験ショーやワークショップ等のイベントがどういったもので、いつどこで開催されているかについて、わかりやすく情報提供する展示端末を科学技術館内に設置します。

②「機械技術・工学への理解増進及び普及啓発を通じた理工系人材育成への取組」補助事業 （公益財団法人 JKA 競輪補助事業）

常設展示室「ものづくりの部屋」に、機械技術・機械工学への理解増進及び普及啓発に資する機械・装置を製作・設置し、もってモノづくり（製造に関わる産業）への興味関心を高め、理工系人材育成の一助となることを目指します。

(2) プログラム開発

①展示室で実施しているワークショッププログラムの改善

「FOREST ワークス」「建設館」「鉄の丸公園1丁目」「DENKI FACTORY」「実験スタジアム」「アトミックステーション ジオ・ラボ」「クスリウム」「ワクエコ・モーターランド」「ものづくりの部屋」など常設展示室で実施している実験・ワークショッププログラムについて、社会の話題や情報ニーズに応じたコンテンツの加除を行なうとともに、来館者の体験クオリティを担保するためのチェック等を適宜実施します。

II. 他館の運営管理事業（258百万円）

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知識の普及啓発に貢献します。

1. 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉省委託事業）

所沢航空発祥記念館の設立趣旨及び指定管理者応募時の事業計画書の内容に基づき、航空に関する歴史や文化、科学技術を中心に、利用者が求める学習機能・レクリエーション機能・娯楽性などを充足する豊かで特色ある文化的サービスを提供するとともに、青少年の空、航空に対する夢や憧れ、知的好奇心の醸成を図る展示・イベント等、様々な活動を通じて、他に類のない特色のある航空博物館を目指します。

(1) 展示館の運営

- ①利用者から寄せられたご意見やアンケートの回答により入館者ニーズを的確に把握し、ニーズに即した展示施策（スポット展示、収蔵品の展示・定期的な入れ替え等）を通じて、いつ来ても新鮮で飽きない記念館運営を目指し、入館率・リピート率の向上を図ります。
- ②航空に関する収蔵物の調査・収集・保存活動を継続的に行い、展示施策に応じた実物展示や電子的展示等、収蔵物の効果的な活用を通じて、利用者満足度の向上を図ります。
- ③フロアアテンダントの適正配置により、入館者と記念館の“あいだ”をつなぐコミュニケーターとして、笑顔とホスピタリティに満ちた入館者サービスを提供し、利用者満足度の向上を図ります。
- ④2011 年度に新規導入された「ワークショップ」、「スペースウォーカー（重力体験装置）」、「フライトシミュレータ」にインストラクターを配置し、安全管理、分かりやすい操作・演示解説を行います。
- ⑤開館から二十数年が経過しハード及びコンテンツ共に見直しを要する展示物について予算の範囲内で更新や修繕を行います。

(2) 大型映像館の運営

- ①利用者ニーズに応じた映像作品を上映し、利用者満足度の向上を図り、入館率・リピート率の向上を推進します。また、2016年2月に導入した高解像度デジタル・プロジェクターによりバラエティーに富んだデジタル映像を安定的に提供できるよう推進します。
- ②大型映像フェスティバルを適宜実施し、大型映像の魅力と臨場感のある立体音響システムとともに堪能できる映像作品を厳選し、上映します。観覧前後に上映作品をより深く堪能いただけるようミニイベントなどを開催します。
- ③大型映像館の運営に係る年間経費を見直し、経費の低減を図ります。
- ④記念館の設立趣旨に基づき、豊かで特色ある文化的サービスの提供を目的として、科学技術映像祭入選作品の上映会を9月頃に開催します。

(3) 特別展・企画展の開催

利用者ニーズ、その年の時流やトレンド等を考慮し、タイムリーで希少価値の高い特別展・企画展の企画を立案し、ステークホルダーとの連携や実効性のある広報戦略を展開し話題性を高め、開催します。

(4) 完全バリアフリー化と安全管理の徹底

- ①未就学児、高齢者、身体障害者、外国人など、全ての入館者が平等に安心して楽しめる環境整備に努め、完全バリアフリー化による入館者サービスおよび利用者満足度の向上を推進します。
- ②怪我防止用の緩衝材の貼付、ピクトサインによる事故の未然防止、魚眼レンズによる全方位撮影可能な監視カメラでの防災・防犯監視、警備員による定期巡回と機械警備の実施等、引き続き館内の安全管理に努めます。
- ③研修に関しては年2回の防災研修と防災訓練に加え、応急手当研修（心肺蘇生法、AED 使用法、止血法、気道異物除去等）を指定管理者パートナーである公益財団法人埼玉県公園緑地協会と合同で

実施します。その際、習得度を評価するためのテストを実施し、基準点に満たない者は再履修・再テストを行うことを義務付け、「安全管理、BEST から PERFECT へ」をスローガンに更なる安全管理の徹底に努めます。

④高齢者、身体障害者、外国人が常設展示の内容を理解できるように「音声ガイドシステム」を整備し英語・フランス語を含む音声と文字で案内します。

⑤埼玉県が実施を予定している展示館内吊り下げ実機のワイヤー点検について協力します。

(5) 連携活動

①現在、加盟している埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との情報交換や運営スタッフの質的向上、加盟各館の広報や巡回展示物の活用など、更なる協力・連携を図ることにより記念館の質的向上を図ります。

②国内外の航空博物館等との連携を推進し、展示物・収蔵資料の館間貸借を図るほか、特別展・企画展を開催する等、利用者満足度および入館率・リピート率の向上を目指します。

③航空インストラクター（ボランティア）との連携を図り、その得意分野及び専門知識を活かしながら記念館の諸活動の充実に努めます。

(6) 利便性の向上

①各種割引チケット・各種パスポート等を発行し、利用者の利便性を高めることにより入館率・リピート率の向上を図ります。また、春休み・GW・夏休みなどの繁忙期は、月曜開館やナイトミュージアムなど、営業日・営業時間の柔軟で弾力的な運営を図ることにより、利用者ニーズに応えます。

②人気が高い公開講座は講師等と調整して再演を目指します。

(7) 広報活動

記念館の認知度を高め、入館者誘致に結びつけるため、パブリシティを中心として効果的な広報を行います。

①ウェブページを活用して特別展・企画展の開催情報等、常に最新の情報を発信するとともに、今後、他のソーシャル・メディア・サービスの活用を図り広報リソースの拡大を推進します。

②県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを行うとともに、新聞・テレビ等のメディアに取り上げられなかった広報は、メディア各社に対し個別にアプローチし、広報確度の向上を図ります。

③彩の国だより(埼玉県発行)、翔びたつひろば(所沢市発行)および主要新聞、雑誌に広報を行います。

④埼玉県近県の博物館、市内の小・中学校や公民館、図書館等の公的施設にポスターおよびチラシの配布を行います。

⑤当館からのイベント情報の提供を希望するリピーター顧客に対しては、ダイレクト・メールやEメールを活用した情報発信を行います。

⑥公園利用者の入館率向上をめざして特別展や大型映像作品入れ替え等の際にA1版ポスターを園内各所に掲出します。

(8) 団体入館者誘致活動

- ①埼玉県、市内の児童館、市内小・中学校にリーフレットを配布します。
- ②図書・資料室機能の充実と市立図書館との連携を図り、新たな個人客、団体客の増加を推進します。

(9) 巡回展示物の貸出し

特別展やスポット展示の展示物の巡回展示物化を視野に入れた展示物制作を推進し、貸出先のニーズに応じた様々な提案を行いながら、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等への貸し出しや当館でのスポット展示での活用等を積極的に推進します。

(10) 普及啓発活動

①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)の実施

常設展示、特別展では伝えきれない内容を補完することなどを柱に、ファミリー層をターゲットとした新たな利用者やリピーターの確保、CS向上を目指し、継続して新しいプログラムを導入します。

②ワークショップコーナーの多目的活用

記念館の「学びの場」であるワークショップコーナーの活性化を図ります。新たな実験演示メニューの開発・演示、企業のCSR活動と連携した演示等、青少年の知的好奇心の醸成を図ることを目的に、ワークショップコーナーの活動を推進します。

③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

科学技術館における「サイエンス友の会」の活動と運営のノウハウを活かし、2009年度に所沢航空発祥記念館に新しく友の会組織を設けました。今年度も引き続き実施します。「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験させるために、小学3年～6年生対象の会員制組織を作り、航空の科学を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会などの各種行事を実施します。

(11) ボランティア活動の充実

工作教室の開催、航空機の保守・メンテナンス、格納庫・YS-11の公開、飛行機工作教室の開催、常設展示の解説や展示解説ツアーの実施、近隣小学校等へのアウトリーチ活動などを支援する、航空知識の豊富な航空インストラクター・ボランティアの協力を得て、記念館活動の幅を広げ更なる充実を図ります。

(12) ショップ・レストランの運営

記念館の付帯施設であるスーベニアショップおよびカフェレストランとの情報交換を密に行うことで、特別展・企画展での連携等、記念館と一体となった広報、利用者サービスを積極的に行い、集客の向上を図ります。

(13) その他の活動

- ①指定管理者に応募した際の事業計画書の内容の実現に向けて努力します。
- ②展示機体の入れ替えや設備・常設展示物の老朽化対策を検討する「記念館リニューアル推進委員会」の設置を埼玉県に働きかけます。

- ③地域学習の拠点としての航空図書・資料コーナーの設置を進めます。
- ④埼玉県が進めている「施設の長寿命化計画」における設備更新等に協力します。
- ⑤共同体を組む埼玉県公園緑地協会が進めている航空公園を利用したイベント「空フェス」の開催に協力します。

2. 青森県立三沢航空科学館の運営（青森県委託事業）

青森県立三沢航空科学館は、世界初の太平洋無着陸横断飛行の離陸地となるなど航空史と縁の深い三沢の地に在る大規模な航空科学館です。当財団は創設計画からこの航空科学館に関わり、三沢市ゆかりのミス・ビードル号をはじめ航研機などの復元機の展示製作を行いました。2006年度より導入された指定管理者制度に対応し、特定非営利活動法人テイクオフみさわ、育栄管財株式会社、株式会社乃村工藝社とJVを構成して同館の運営を行っています。当財団は主に以下の事業を担当しています。

(1) 展示物の点検・補修・改善

展示装置の異常や故障などを未然に防止し、正常な稼動と安全運用を確保するため、年4回保守点検業務を実施します。

(2) イベントの開催等

科学に関するテーマの特別展を企画し、夏休み期間に三沢航空科学館で開催します。

Ⅲ. 他館に対する活動支援事業（98百万円）

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行います。

1. プレアデス事業による教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 新規設置

- ①特殊映像システムの受注を目指します。
- ②地方公共団体及び民間企業のデジタルドームシアターの設置に関わる業務受注を目指します。

(2) 保守、運営支援

- ①日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務（公益財団法人 日立文化情報財団委託事業）
- ②山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務（公益財団法人 山梨県青少年協会委託事業）
- ③プラネタリウムシステムソフトウェア保守業務（川崎市および平塚市委託事業）
- ④岡三証券神楽洞夢保守点検業務（株式会社岡三証券グループ委託事業）
- ⑤サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務（小松市委託事業）

2. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 企画開発業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる企画開発業務の受注を目指します。

(2) 運営保守業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる運営保守業務（指定管理者、PFI）の受注を目指します。

IV. 科学技術系人材の育成事業（123百万円）

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

1. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

①青少年のための科学の祭典全国大会

産業・学術との連携を強化し、企業・団体のCSR活動とした出展や、日本学生科学賞との連携により全国レベルの中学校・高等学校の研究発表を実施することで、幅広い年齢層の来場者の科学技術に対する興味関心を高める全国大会を目指します。また、近隣の大学生や高校生の出展補助スタッフとしてのボランティアを募り、教えることの経験を通じた教育的効果を高めます。

会期：2018年7月28日（土）～7月29日（日）（予定）

②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約80の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

(2) 少年少女創造性育成事業業務（公益財団法人 新技術開発財団委託事業）

小中学生を対象とし、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを2回、市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品展および科学教室を1回開催します。

(3) STEM教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

STEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics）プログラムによる、小中学生を対象として、科学、技術、工学、数学の分野のリテラシー向上のためのイベントやワークショップを実施します。

2. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック2018の開催、第29回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

（国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業）

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。国内大会「日本生物学オリンピック 2018」は、全国規模（100会場予定）で7月に実施する予選に続き、東京大学の協力を得て8月に同大学で本選を開催します。

①「日本生物学オリンピック 2018」の開催

成績優秀者から、2019年にハンガリーで開催される第30回国際生物学オリンピック日本代表4名を選抜します。

②第29回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

2017年に開催された日本生物学オリンピックから選抜された日本代表4名を7月にイランで開催される第29回国際生物学オリンピックに派遣します。

(2) 第31回国際生物学オリンピック開催準備

2020年に日本で開催を予定している第31回国際生物学オリンピックについて、経理事務を行います。

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催

(公益財団法人 東京応化科学技術振興財団助成事業（予定）)

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや、細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。

V. 科学技術の普及啓発事業（209百万円）

優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品のテレビ放映や全国の科学館での巡回上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

1. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第59回科学技術映像祭の開催

科学技術週間に合わせ、入選作品発表会として科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞をはじめ、各賞表彰式と入選作品上映会を開催します。また、科学技術映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学館で実施します。

2. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

(1) 放射線・エネルギー等に関する理解促進事業

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

- ①放射線教育を行う教育職員に対して放射線教育授業実践事例、指導案、放射線に関する資料等を提供する情報提供事業
- ②学校教育における放射線に関する教職員等を対象としたセミナー及び児童生徒等を対象とした出前授業を実施する事業（文部科学省委託事業（予定）等）
- ③「青少年のための科学の祭典」でのエネルギー・放射線教室
- ④学校でのエネルギー教育活動を支援する事業（資源エネルギー庁委託事業（予定）等）

VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業（3百万円）

顧客ニーズを知るための科学技術館来館者調査等、展示や教育、運営に関する調査を行います。調査結果は現場で活用するとともに、可能な限り科学教育学会、ミュージアムマネジメント学会等で発表します。

VII. 科学技術の研究開発とその促進事業（0百万円）

2018年度事業計画策定時点では、当部門で計画・実施予定の事業はありません。

VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業（330百万円）

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁および関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託し、財政基盤の安定化を図ります。

また、重要な経営資源である情報資産を安全かつ安定的に利用できるよう情報セキュリティ対策、BCP対策に取り組みます。

1. 情報システムの設計開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

データベース検索システム、教育機関や官公庁等における業務処理システム、通信教育支援システムなど、データベースやネットワークに係る情報システムの設計および開発・保守業務を受託し、実施します。

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

製造業関連の民間企業を中心に、PLM システム、生産シミュレーションシステムなど、生産管理に係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(3) マルチメディア・データベースシステムおよびインターネット関連システムの設計開発

博物館や文化施設向けにマルチメディア展示システム、ネットショップをはじめとする Web 関連システムなど、展示やインターネットに係る情報システムの設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

(4) 解析・シミュレーション等の技術による新エネルギー関連システムの設計開発

太陽光発電システム、電力供給関連シミュレーションシステムなど、電力エネルギーに係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(5) その他

官公庁および関連機関や民間企業の Web による情報発信業務等の設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

2. 情報システムの運用サービス

官公庁および関連機関、通信教育団体等を中心に、インターネットを活用した情報処理システム等の運用サービス業務を受託し、実施します。

あわせて、情報セキュリティ対策、BCP対策として、クラウド型サーバへの移行を実施します。

IX. 科学技術館施設の利用促進事業 (423 百万円)

科学技術館は公共性の高い施設のため、入館者の安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

1. 建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

X. 補助を得て実施する事業（予定）

2018年度は、公益財団法人JKAから競輪の補助金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の自転車等機械振興事業の採択および補助金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. 公益財団法人 JKA 競輪補助事業（自転車等機械振興事業）

(1) 「機械技術・工学への理解増進及び普及啓発を通じた理工系人材育成への取り組み」補助事業

①申請額

補助金	44,318千円
自己資金	11,081千円
<hr/>	
事業費総額	55,399千円

②事業概要

常設展示室「ものづくりの部屋」に、機械技術・機械工学への理解増進及び普及啓発に資する機械・装置を製作・設置し、もってモノづくり（製造に関わる産業）への興味関心を高め、理工系人材育成の一助となることを目指します。

XI. 助成を得て実施する事業（予定）

2018年度は、一般財団法人日本宝くじ協会、公益財団法人日本財団、公益財団法人日本海事科学振興財団、独立行政法人国立青少年教育振興機構、および公益財団法人東京応化科学技術振興財団より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の各助成事業の採択および助成金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. 一般財団法人 日本宝くじ協会 宝くじの社会貢献広報事業

(1) 館内マルチインフォメーション整備事業

①申請額

助成金	40,000千円
自己資金	2,682千円
<hr/>	
事業費総額	42,682千円

②事業概要

科学技術館を利用する海外からのお客様を含む老若男女さまざまな入館者に対して、館内の多彩な展示、実験ショーやワークショップ等のイベントがどういったもので、いつどこで開催されているかについて、わかりやすく情報提供する展示端末を科学技術館内に設置します。

2. 公益財団法人 日本財団助成事業

(1) 「光」を総合的に学習する巡回型展示物の制作

①申請額

助成金 7,750 千円

自己資金 1,940 千円

事業費総額 9,690 千円

②事業概要

“「光」を総合的に学習する”というコンセプトのもとに、1.原理や特性を学べ、体験を通じて再認識できるもの。2.身近にあるもので、原理を応用した事例や商品化された製品に関する紹介、という2つのカテゴリーを元に15点程度制作し、光に関する関心や理解増進と科学技術分野への人材育成の波及を目指します。2019年春にミニ特別展を開催します。

3. 公益財団法人 日本海事科学振興財団 海の学びミュージアムサポート事業

(1) 特別展「知れば知るほど深くなる！？ もっと知りたい！うみのこと（仮）」

①申請額

助成金 7,909 千円

自己資金 1,977 千円

事業費総額 9,886 千円

②事業概要

2017年に開催した特別展「たからのうみ と うみのたから」への来場者が書いた「もっと知りたい！うみのこと（何を知りたいか）」で回答が多かった「海」に対する素朴な疑問に呼応して、科学技術館のもつ「見て・触って・からだ全体を使って体感し、自分の知識や興味に応じて楽しみながら科学と技術に興味・関心を深める」という特徴を生かし、「海」の科学的側面、「海」を知るための技術、「海」を利用する叡智等、多方面から人と海の間わりについて、学び、考える場を提供します。

4. 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

(1) 青少年のための科学の祭典2018 全国大会

①申請額

助成金 6,000 千円

自己負担 4,700 千円

事業費総額 10,700 千円

②事業概要

参加体験を基本コンセプトとして子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・

実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

(2) 東京の自然から学ぼう！2018

①申請額

助成金	595 千円
自己資金	55 千円
<hr/>	
事業費総額	650 千円

②事業概要

本事業では、東京都を活動の拠点として様々なプログラム（北の丸公園内の生態調査、天体観察、河川・地質観察）を実施し、子どもが自然の中で様々な遊びや自然に触れ親しむ体験活動や子どもたち同士や子どもたちと様々な年代層の人達との相互理解を深める交流活動を展開します。今年度も、学校教育では学ぶ機会の少ない「地学」分野のプログラムを追加し、全体の実施回数も増やして、充実したプログラムで実施します。

5. 公益財団法人 東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

①申請額

助成金	300 千円
自己負担、参加費	552 千円
<hr/>	
事業費総額	852 千円

②事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年4回（8講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

(注) 上記の内容は申請時点のものです。